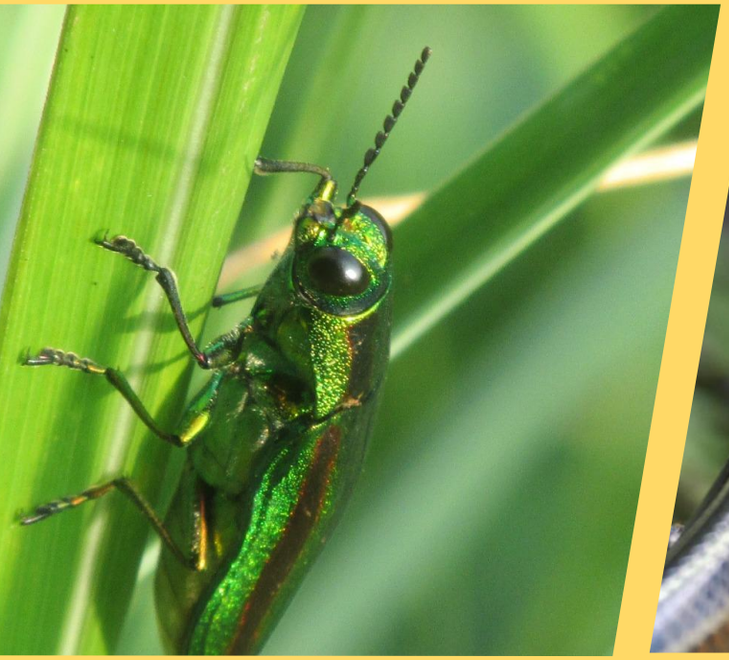
堺市の生物多様性にふれる冊子

堺いきもの通信

キイトトンボ

2025 夏号



タマムシ

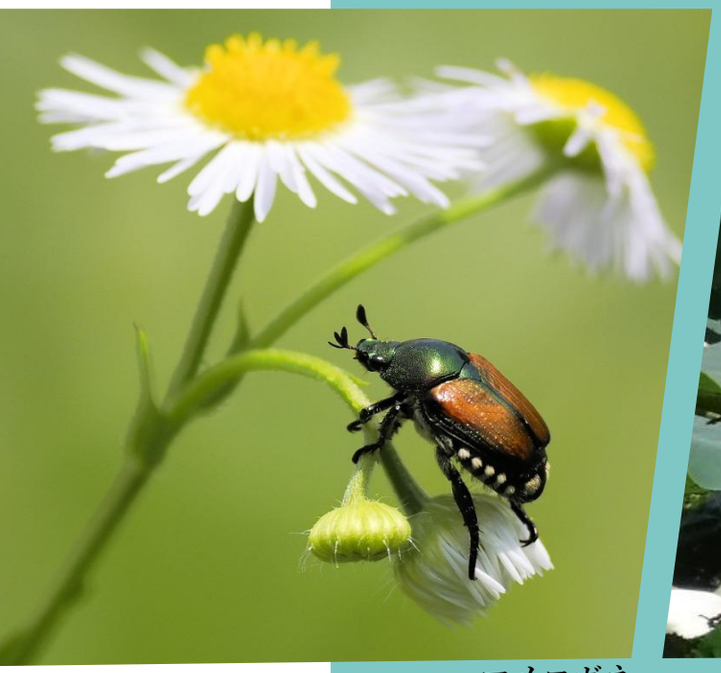
ニホントカゲ

ヒメアカネ

堺にすむ いきものたち

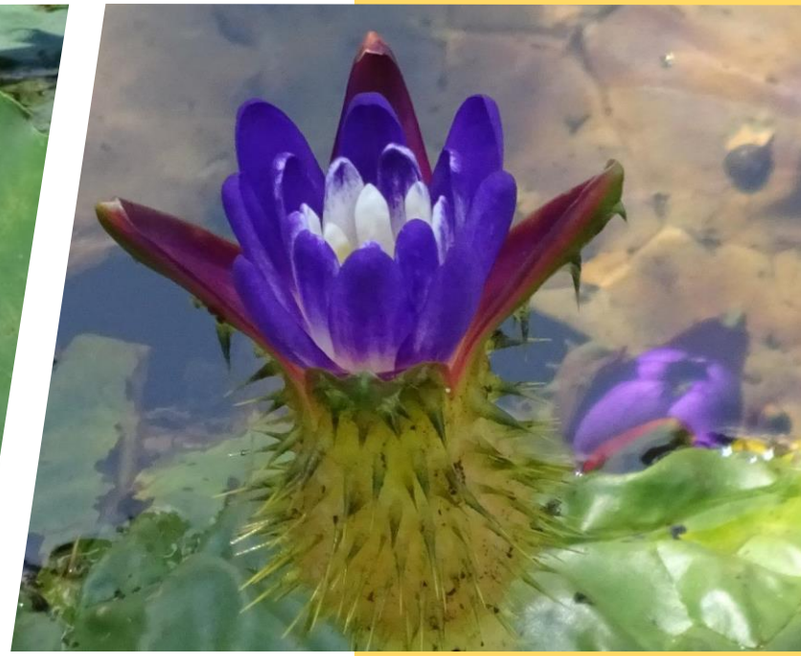
生物多様性とは、単に動物や植物の種類が多いということだけを意味するものではありません。地球上では、様々な環境の中で多様な生き物が食べる・食べられる・共生するなど、お互いにつながりをもって生きています。このように、多様な生き物がお互いにつながりをもって生きていることを生物多様性といいます。

　ここでご紹介する写真は、すべて堺市内で撮影された写真です。WEBサイト「堺いきもの情報館」に市民の方などからご投稿いただきました。個性豊かな生き物たちや彼らのすみかを見て・知って、生物多様性を感じてみてください。**生物多様性とは身近なものなんですよ！**



マメコガネ

ゴイサギ



オニバス

もっと いき もの知りになれる！

生物多様性のおはなし

－生物界で見られる共生とは－

近年、多様性や共生という言葉を聞く機会が増えたような気がします。さて、「共生」とはどういう意味なのでしょうか？改めて聞かれると、漠然としたイメージしか出てきません。

ちなみに、今流行りのChatGPTに聞いてみると、「異なる存在が互いに助け合いながら、共に生きることを意味します。」とあります。クマノミとイソギンチャク、ミツバチと植物の受粉などの、どことなく、互いを思いやる平和で優しいイメージを持たれるのではないでしょうか。

では、実際の自然界、生物界ではどうなのでしょう。生物学的に厳密にいうと共生は一種類でなく、一方だけが得するいわゆる寄生や偏利共生、互いが競合する競争、捕食なども共生に含まれるようです。また、興味深いのは、先ほどまで、共に仲良く暮らしていたもの同士が、突然牙をむくこともあるようです。

例えば、ネコが発症する伝染性腹膜炎（ＦＩＰ）という病気は、通常は、ネコの腸内で穏やかに住んでいる猫腸コロナウイルス（ヒトには感染しません）が突然変異を起こし、病原性を持つことによって起こる病気です。猫腸コロナウイルスは、約８０％のネコが持っているといわれており、なぜ突然変異し、病原性をもつようになるのか原因は不明です。発症すると、有効な治療法がほとんどなく、致死率はほぼ１００％と言われています。また、先ほどのクマノミとイソギンチャクの例でも、食べ物が不足するとクマノミはイソギンチャクの触手を食べてしまうようです。

表面的に平和な共生関係にも、激しい戦いが含まれていることもあるようです。自然界はなかなか厳しいですね。

堺市の生物多様性を考えるWEBサイト

さかい いきもの じょうほうかん 堺いきもの情報館

≪編集・発行≫

堺市環境局　環境保全部　環境共生課

TEL：072-228-7440　/　FAX：072-228-7317

E-mail：kankyo@city.sakai.lg.jp

WEBサイト
トップページ

ユーザーネーム
sakai_ikimono

Instagram
アカウント